ゲノムに触って！
ゲノムで感じて！

ゲノム研究 勢ぞろい！

in福岡
Fukuoka

来場者の声

- はえのたまごが見れたからうれしかった（8歳・男）
- こんなにたくさんのゲノム研究が行われているのは知らなかった（17歳・女）
- ゲノム解析の先に実用化に向けての取り組みがある事がわかりました（20歳・男）
- ゲノムという言葉にもいろんな意味が含まれているとわかった（20歳・男）
- 意外にも（失礼な言い方ですが…）楽しかったです（20歳・男）
- 最先端の物が身近に感じられてよかった（37歳・男）
- 知りたいけど、知り得る機会が少ないゲノム。楽しく、おもしろく見ました（44歳・女）
- この次は又進歩していることを期待（50歳・男）
- ふだん見れない世界をかいまみることで、研究者の方の気持が少し分かったような気がしました（57歳・女）

福岡会場の報告

久原 哲（九州大学大学院農学研究院教授）

ゲノムひろば開催が対象とする人々が高校生と一般社会人であることから、事前の広報あるいは情報伝達を考えなければならなかった。特に高校生は将来のゲノム研究を担う人材として大いに参加してもらいたいとの期待が多かった。高校生に対しては福岡県を中心とした北九州地域の高校にゲノムひろばの情報を流すことを実行した。公立高校に関しては県の教育委員会が大きな協力をしていただいた。県下の公立高校に情報を流していただき、スムースな情報伝達ができたと思う。私立高校に対してはそのような一括した情報伝達ができず、個々の高校に対して個別の対応を行わなければならなかった。中学校に関しても市の教育委員会が一括して対応していただいた。振り返れば、公立学校に関しては、十分な情報伝達ができたと思える、その反面私立学校に対しての情報伝達は不十分な点があった。この点は次回では改善したいと考える。解決策の一つとしては、高校の生物系の先生に対して研究会等の事前情報伝達を行うことがあるのではないかと思う。高校の先生方もゲノム研究については興味があるとのことで、研究の現状を理解していただいておくのも生徒に対しての指導も容易になると思われる。福岡としては我々の周りに北九州地区の高校出身者が多くいるので、細かな情報を個人的に伝えることが可能であった。この点は地方の特異性ではあるが、有効な点であった。これに対して、一般の人々に対しては、新聞等での情報伝達が遅く、量が少なかったと思える。事前の対策を次回は十分行いたいと思う。

開催両日は入場者も多く、活気あふれるゲノムひろばとなった。東京会場の後であったことから、東京会場での問題点を幾分改良でき、ポスターはわかりやすい、カラフルであり、来場者にとっては、東京会場よりわかり易かったと思える。しかしながら、全体的には一般社会人には十分理解できるような内容ではかなったかもしれない。福岡会場では展示の種類がそれほど多くなかったのが残念であった。ホヤ、ショウジョウバエ、アサガオ等人気の展示もあったが、もう少し多ければもっと盛り上がった可能性もあったのではないかと思う。また、多少の実験が可能であることは、DNAの抽出実験を行ったことで実証され、次回はもっと実験を行うことを考えてもいいのではないかと思う。

ゲノム談義に関しては、福岡会場では遺伝病に関する議論が盛りあがり、予想したとおりの結果ではあったが、関心は大いにあるとの感じを受け、次回は正面から遺伝子診断あるいは遺伝子治療等の問題に踏み込んでもいいのではと思う。

■来場者人気投票の結果

1位　B-8　甘味の分子生物　ショウジョウバエの味覚感覚を遺伝子から探る

2位　B-6　体をつくりだす遺伝子たち

3位　D-25　コンピュータを使って複数の遺伝子の関わりを調べよう

研究者の声

- 一般の人もかなり深い部分まで興味を持っている事に驚いた
- 研究室の中では学べない事が学べたような気がする。視野が広がった
- 自分の研究に興味をもっている人が多数いることを体感し励みになりました
- 目を輝かせて「自分もこういう研究がしたい」と言った高校生がいた
- 市民へのプレゼンスは研究者の義務であることを感じた
- 一般の人にも理解できるように話すことは、自分の研究の基本を見直すことに役立つ
- 子供にもわかるように説明できなければ自分が本当に理解していると言難いと気づいた
- 隣のポスターがすばらしくきれいだったので、来年はぜひ回したい
- 会場のスタッフやお客さんから「画期的だ」「歴史的だ」という声が聞かれた